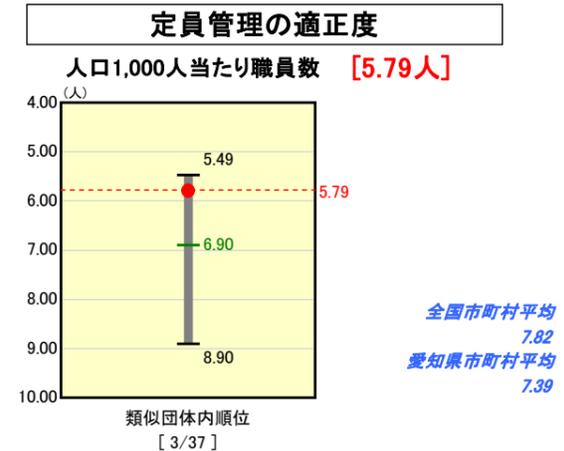
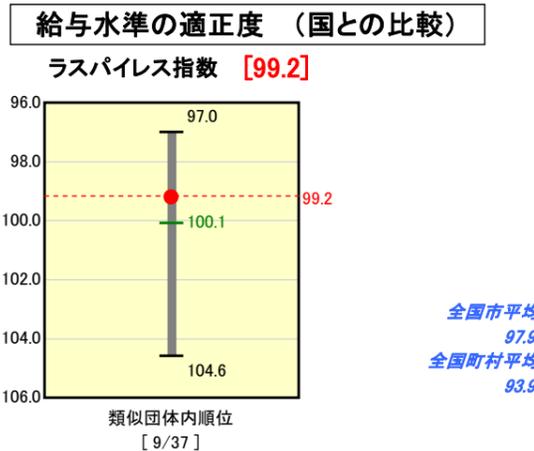
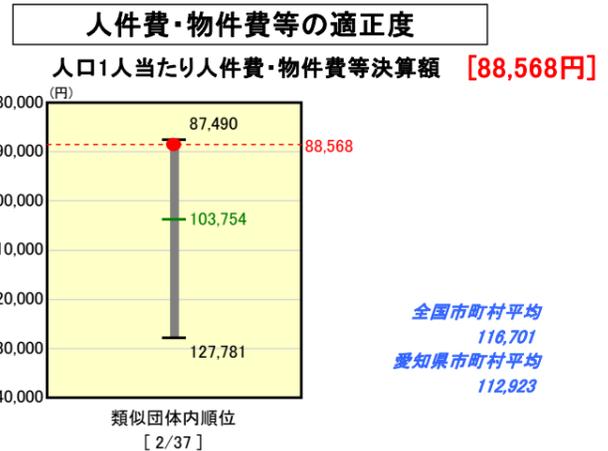
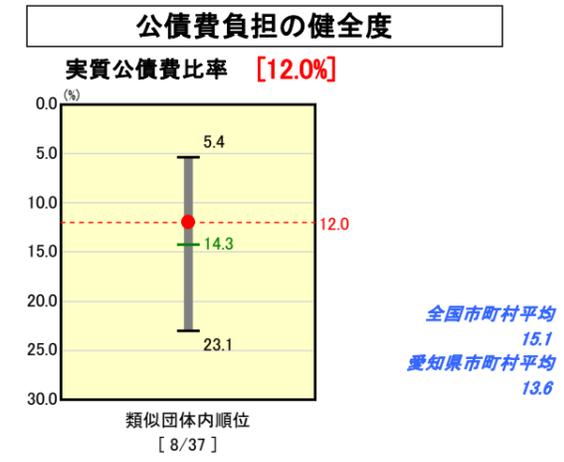
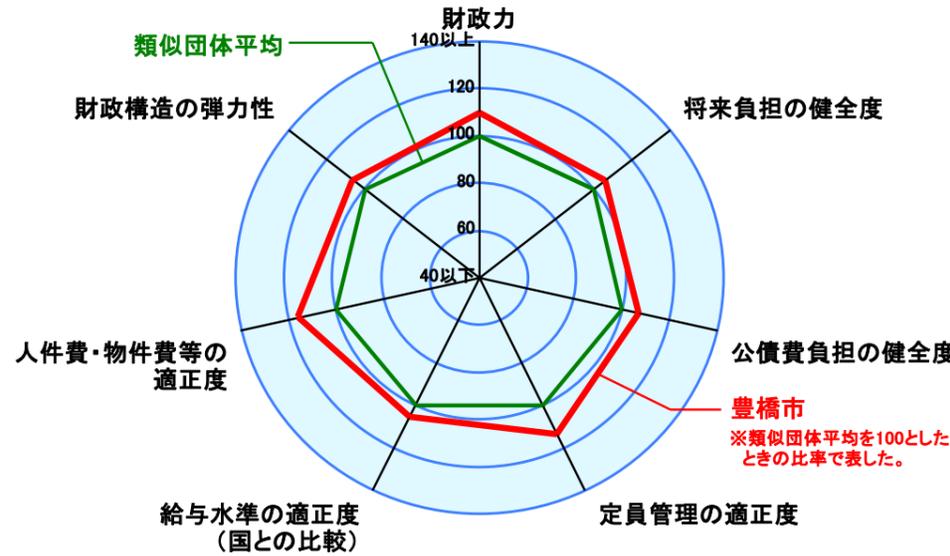
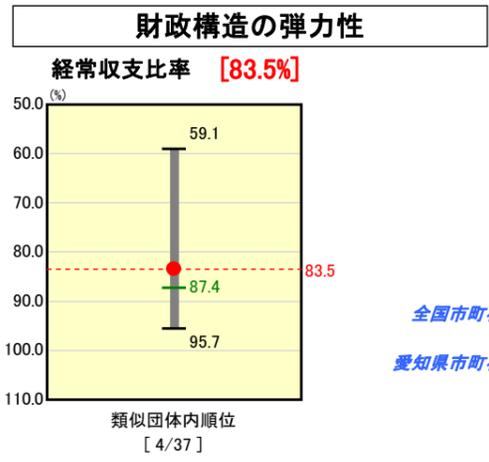
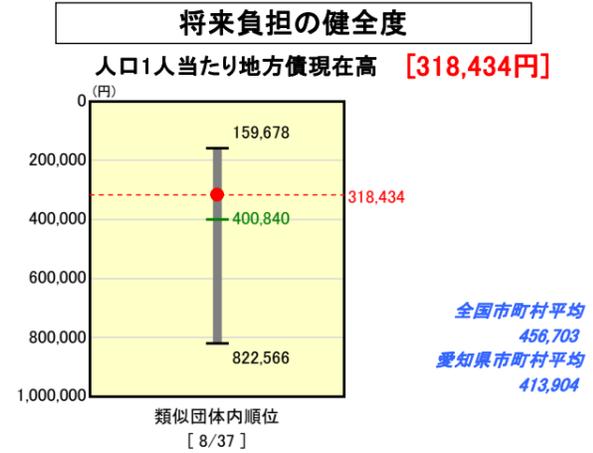
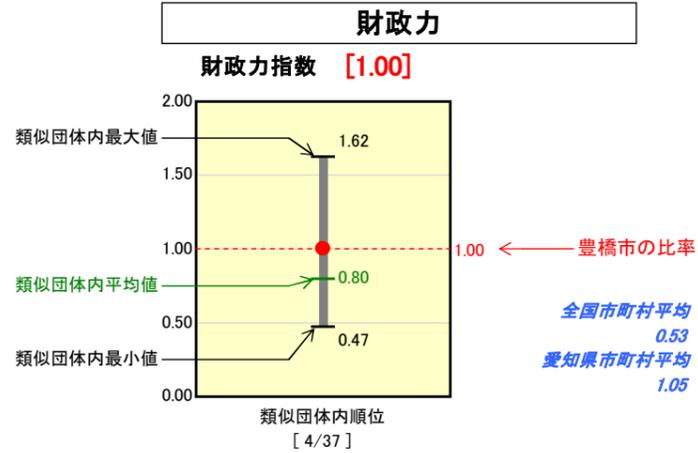


市町村財政比較分析表(平成18年度普通会計決算)

愛知県 豊橋市

人口	362,887人	(H19.3.31現在)
面積	261.36	km ²
歳入総額	110,811,493	千円
歳出総額	105,283,744	千円
実質収支	5,062,904	千円



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

- 財政力(財政力指数)

交付税制度の見直し、景気回復による市税の増収などを背景に近年は上昇傾向にある。平成18年度は前年度の0.96から1.00へとさらに上昇し、類似団体との比較においても6位から4位となっている。引き続き、市税増収につながる施策を展開し、安定した財政基盤の確保に努める。
- 財政構造の弾力性(経常収支比率)

平成18年度は、市税や地方譲与税など経常一般財源収入が増加したため、経常収支比率は前年度の85.0%から1.5ポイント改善し、83.5%となった。類似団体との比較においても14位から4位となっている。引き続き、財政構造の硬直化に十分に注意し、経営改革プランに掲げた平成22年度の目標値80%に向け、健全な財政運営に努める。
- 将来負担の健全度

人口1人あたりの地方債現在高は、318,434円であり、前年度から3,316円減少した。類似団体内の順位は前年度と変わらず8位となっている。平成18年度は臨時財政対策債の借入れを抑制し、将来負担の軽減を図っており、今後とも計画的な借入れを行い、地方債現在高の縮減に努める。
- 公債費負担の健全度(実質公債費比率)

平成18年度は、こども関連施設等用地の引取りが始まったことにより、12.0%と前年度の11.2%から0.8ポイントの上昇(悪化)となった。類似団体内の順位も8位となったが、全国市町村平均・愛知県市町村平均と比較して健全度は高い状況となっており、今後とも良好な範囲を維持する。
- 人件費・物件費等の適正度

経営改革プランに基づく定員管理や地域手当をはじめとした職員手当の見直しなど継続的な人件費抑制に努めた結果、人口1人あたりで88,568円となり、前年度から4,183円減少した。類似団体内の順位も前年度と変わらず2位と適正度を維持しているが、人件費や物件費等の消費的経費について不断の節減に努める。
- 給与水準の適正度(ラスパイルズ指数)

平成19年4月1日におけるラスパイルズ指数99.2は、基準である国の100を下回っており、類似団体内の順位も9位と比較的上位にある。引き続き、給与水準の適正化に努めるとともに、職員一人ひとりが意欲を持って働ける給与制度へと転換を進める。
- 定員管理の適正度

業務の徹底した見直しやアウトソーシングの積極的な推進により、平成19年4月1日における職員数は、前年度に対して28名の減員となった。人口1,000人あたりの職員数では5.79人となり、前年度から0.1人減少した。類似団体内の順位も3位と他の自治体と比べ少ない職員体制となっており、引き続き、嘱託職員や再任用職員など多様な任用形態の職員を効果的に活用しながら業務執行体制の整備に努め、より一層効率的な組織へと転換を進める。